

科目名	金工実習Ⅱ			科目コード	1613
開講学科	美術学科	単位数	4（計）	形態	実習
教員名	杉井 啓三				
授業の目的及びテーマ：					
ロストワックスキャスティング技法で、シルバーリングを制作します。					
授業概要					
ここでいうワックスとは、ろうそくのロウのようなものです。それを材料として原型を作り、石膏に埋没しロウを溶かして出来た空間に溶解したシルバー等の金属を流し込んで制作する方法が、文字どおりロストワックスキャスティング技法です。 金属に対する特別な知識や加工技術が不足していても、イメージしたものをカタチにしやすい技法です。					
授業計画：					
【通信課題】 シルバーリング 2 点 テーマ「指を飾る小さな彫刻」					
第 1 課題					
自身のイメージ、生き物(動植物)、人工物(工業製品、建築物、屋外彫刻)立体ではないものなどからイメージしたリングのデザイン 10 点を、立体感がわかる角度から実物大で描写する(1 点の大きさは 1 辺 3cm の立方体におさまるようにすること)。 提出様式：用紙サイズは A4 で、1 枚の中に何点でも可。自身が作りたい順番を①～⑩で示すこと。 デザインソースとなった資料、又は説明も添えること。 その中から数点選び、修正点、注意点などを課題返却時に指導しますので、それにそって第 2 課題に進むこと。					
第 2 課題					
①第 1 課題で選ばれたデザインからモデルを 2 点制作する。 提出様式：紙粘土、樹脂粘土、消しゴムなど扱いやすいと思われる素材を材料とし、彫刻刀、カッターナイフ、ヘラなどで原寸大で制作し、スクーリングの初日に持参すること。大きさに多少の誤差があっても構いません。また、ワックスでの制作も可とします。					
②そのモデルをもとに、2 点の完成予想レンダリングを立体感の分かる角度から描いてください。					
第 3 課題					
第 1 課題からの流れを含め、スクーリングでの制作工程について、図や写真などを使いまとめること。 提出様式：A4 縦長横書き 5 枚以上。					
テキスト	「ワックスモデリングの基本ーワックスによるジュエリー制作技法」 日本宝飾クラフト学院 著 (織研新聞社)		参考文献：		
評価方法：					
通信授業は提出課題(3 件)を以って評価する。 面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。					